

エッセイ「アンニョンハセヨから始めよう」

JRに乗り続け隊 友田 博

コロナ禍以前、まだ日本への外国人観光客が急激に増えていた時、「やれ民泊だ、やれインバウンド需要だ」と浮かれていたことが、今は夢だったのではないかとも思えます。当時は鉄道会社も海外進出、そして来たる東京オリンピック開催を念頭に置いた、駅案内表示などを英語、中国語そして韓国語表記を追加されたりしました。また、海外からの観光客のおもてなしのために外国語能力の修養がされており、私もたまたまですが韓国語を勉強していました。

私は学生時代にアメリカ合衆国へ単身で旅行に行った時に、現地の列車の中である家族連れから忘れられない歓待を受けたことがあります。その時はアメリカ人のホスピタビリティの豊かさに感動し、いつかは自分も外国からの旅行者に同じようなおもてなしが出来れば良いと思っていました。当時、外国人観光客を博多駅で多く見かけていた時のエピソードです。

*

博多から出張のために快速電車に乗る。最近では日本を訪れる外国人旅行者が本当に増えていて、博多駅の外国人専用窓口にはいつも長い列が出来ている。昔、日本人が海外旅行に出かけた時は、言葉の心配もありツアー旅行を申し込んで添乗員さんに付いて回った人が多いと思う。しかし、最近の旅行者はSNSが発達したことで、日本人で

も詳しくないような小さな名店でも見かける。移動手段もツアーバスではなく、公共交通機関、特に列車を利用してはいるも少なくない。今日は座った席の通路を挟んだ反対側の席に椅子を向かい合わせにして座る家族連れの旅行者が座っている。韓国語を少しだけ勉強しているの言葉から韓国からの旅行者で間違いないことが分かる。新幹線でも、特別な観光列車でもない「こんな普通の列車に？」と驚くが、これがインバウンドの勢いなのだろう。

しばらくすると小学校の低学年くらいの男の子が席を立ち、モジモジと足を内股にする特有の仕草を始めた。この仕草は万国共通であり、どうやらオシッコがしたいみたいである。トイレはこの車両にはなく、前方の車両にあると記した日本語表記のシールが窓に貼ってあるが、外国人に気付くことが出来るとは思えない。

「フアジャンシル？」

本当にトイレに行きたいのかという確信はなかったが、通路の反対側の子供に尋ねかけた。

「ネー！（はいー）」

答えたのは当の本人ではなかったが、向かいあって座っていた父親が首を縦に振った。

「フアジャンシリ チョギ、チョギ（トイレはあっち、あっち）」と、トイレの位置を表記したシールも教えながら、指でトイレのある車両の方向を教えると、その父親は子供の手をとって教えた方向へ走って行った。

韓国の言語であるハングルで「화장실」と書いて「フアジャンシル」と読む。元々は中国の漢字を用いて「化粧室」と書く。化粧室と言えど日本人でもトイレと通じるが、フアジャンシルと言われても殆どの日本人は解らないし、ハングルでそのまま紙に書かれても単なる記号にしが見えないだろう。その場面で「よくぞその単語を思い出した」と自分を褒めた。

残念ながら韓国語の勉強を始めたのは自分の意思では無く会社からの半ば強制的なきっかけではあった。当時の年齢は四十半ば。アルファベットのように学校で習ったことのないハングル文字は、まさに記号であり、チンプンカンプンであった。

覚えたと思ってもすぐ忘れる自分を恨めしくも思った。それでも、挫折をせず勉強を続ける原動力となったのは、当時から韓流としてブームとなり、今でもK・P・O・Pを代表する美脚の「少女時代」そして魅力のヒップダンスの「KARA」の歌であった。彼女たちの歌を原曲で聴いて歌詞の意味を理解したくて、ひたすら韓国版のCDを歌詞を追っかけながら聴き、分からない単語があれば辞書を引いた。

韓国語を勉強をして気づいたことは、日本語と韓国語の共通点が多いことだった。これは双方が漢字を基にしていることによる。前述した化粧室は「ケシヨウシツ」と「フアジャンシル」で読みは異なるが、

「余裕（ヨウウ）」は韓国語でも「요유(ヨユ)」であり、ほとんど同じ

読みとなる。また「会社」はサフエ、「社会」はフェサとなるように、漢字ごとに決まった読みがあつて、そのルールを一度覚えると単語学習が容易になるし、推測も出来るようになる。

次に語順のルールが同じである。「今日、私は学校へ行く」という文は「私は、今日学校へ行く」と言い換えることが出来て日本語と同じ感覚で話せるのが助かる。日本人が学習するには向いている外国語であるのは間違いない。

韓国語だけではないが理解の出来ない言葉は、自然と恐怖となり嫌悪感を抱かせる。英語だけでも四苦八苦している日本人の語学教育であるが、もしかするとあいさつ程度で良いから、他の外国語について子供の頃に少しだけでも触れさせておくことが良いのかもしれない。子供は興味さえ持てば、ちよつとしたきつかけから伸びていく可能性を秘めているが、今はそのきつかけさえ無いからだ。

残念ながら現在、日本と韓国の交流は良いとは言えない状態である。お互いが歴史的な出来事を引きずって複雑な心境にいる。理由については双方に言い分があり、歴史的な事実を知らない自分では正確なジャッジが出来ないし、知らない人間は野次馬的な発言をするべきではない。

国と国の関係は人と人の関係に似ているところも多いと思う。同じ日本人どうしでも全く同じ人間はいないが、国が違えば言語、宗教、歴史、文化が大きく異なるから、なおさらであろう。

こちらの感覚で期待する反応を相手が見せなければ確かに腹も立つかもしれないが、その度にお互いがソップを向いてしまえば永遠に

気まずい思いをしながら暮らさなければならなくなる。気の合わない人間とどのようにつきあえば良いだろうか。「つきあわない」ということも一つの答えかもしれないが、それでは全てが終わってしまう。完璧な答えは無いと思うが、ひとつの考えは「相手の良いところだけを見る」ということだと思う。気にいらぬやつでもひとつくらいは良いところもあるはずだ。そのためにも、相手を良く知るといことが大事になる。

鉄道業を生業として働く者としては忘れたくない、いや忘れてはいけない鉄道の事故がある。二〇〇一年に起きた山手線新大久保駅で起きた人身事故である。ホームから落ちた日本人の男性を助けようとして、二人の人が自ら線路に飛び降りたが、結果として三人とも列車にはねられて亡くなった。この事故を受けて鉄道会社はホーム転落時の安全対策を進めていくことになる。

助けに飛び込んだ二人のうち一人は韓国から日本に留学に来ていた大学生であった。彼にとって「ガイジン」である日本人を助けようとして若い命を落とした哀しい事故だ。この事故のことを思うたびに、同じ状況に遭遇した場合に、彼ほどの勇氣ある行為が自分に出来るかを自問自答する。

この事故も当時は悲しい美談として取り上げられていたが、いつの間にか忘れられてしまっているのが残念だ。事故からしばらく経つため、事故のことを全く知らない若い人たちもいるだろう。

ひとつの事象から友好的な関係が崩れてしまえば、それを取り戻すためには、その何倍もの良い感情を相手に抱くことが必要になる。

夫婦でも仲が険悪になった場合には一時的な感情に流されずに頭を冷やすことが大事だと聞く。仲睦まじかった頃の写真を一緒に見直せば良いという解決策もある。国どうしの感情も同じで、今こそ過去の両国のこと、災害時に互いに助け合ったことやブームではあったが韓流の背景にある韓国人の優しさを思い出したい。

子供とお父さんが席に戻ってきた。子供の顔を見ればなんとか間に合ったみたいだ。いくら幼児でも旅行中にオシッコで失敗すれば、日本での旅行の思い出が生涯嫌なものになったかもしれない。

国どうしの関係を直せるわけでもないが、外国からせつかく日本に来てくれた子供のピンチを助けることは出来た。小さなことではあるが韓国語を勉強しておいて本当に良かったと思った。ただそれだけの話である。

※

コロナ禍の中、ワクチン接種の進捗など、マスコミで日本の対応の遅れが諸外国と比較されたことにより、多くのことを考えさせられました。世界の中で、いつの間にか日本は「井の中の蛙」になっているのではないかと、「うさぎと亀」のうさぎのように油断もしていたのではないかと。留学希望など、今の若い人が海外に学ぶことに消極的だとも聞きます。それでも、海外に学ぶことがたくさんあり、コロナ禍が終息した時には、世界の、そして日本の列車の中で楽しく海外からの旅行者と交流できる日が戻るのを期待しています。